

破砕処理の必要な物の例

・災害がれき



仮置場で不燃、可燃別に性状ごとに粗選別し、可燃物を前処理施設に搬入し破砕

・草本、木質系

①



ロールを搬入し重量を測定後、ラップ等を取り除き、裁断機で裁断又はチップパーで粉砕

・粗大ごみ系



仮置場で可燃のものを粗選別し、前処理施設に搬入し破砕

②



フレキシブルコンテナバッグなどに密封して搬入。



フレキシブルコンテナバッグを開封して取り出し、破砕機にて破砕

破砕処理の不要な物の例

・生活ごみ系

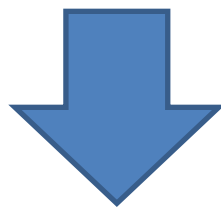


フレキシブルコンテナバッグや回収袋など形状で搬入
また、パッカー車等で搬入するケースも想定

・汚泥系



フレキシブルコンテナバッグなどに密封して搬入。
フレキシブルコンテナバッグを開封し、焼却炉へ投入

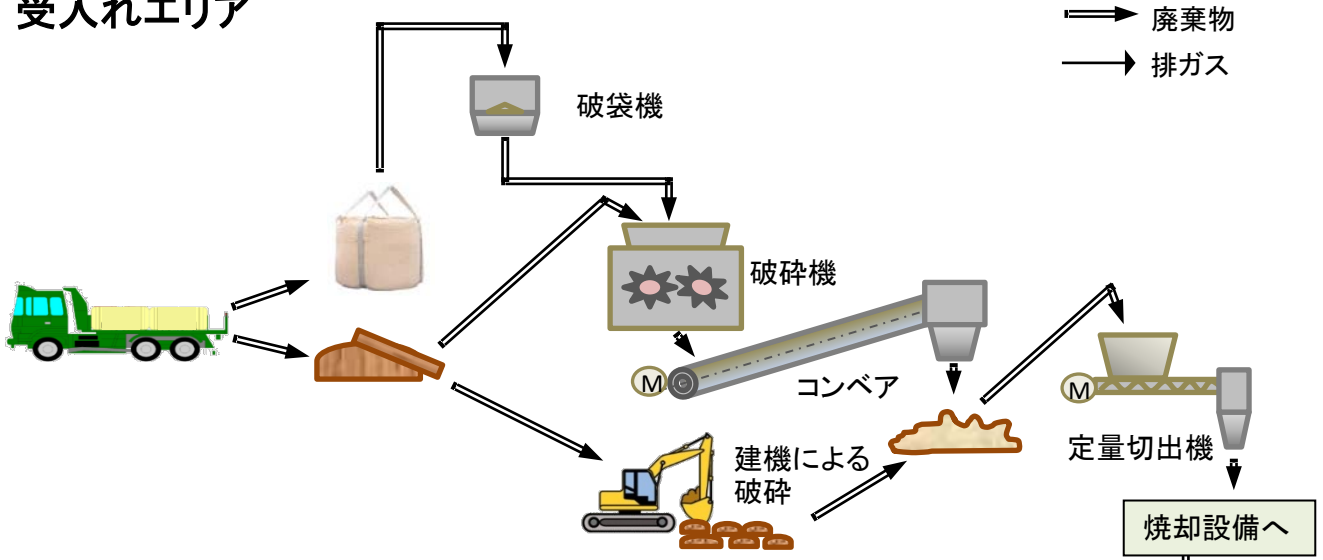


廃棄物の調整

・焼却等の処理を安定的に行うため、混合等の調整により熱量などを均質化

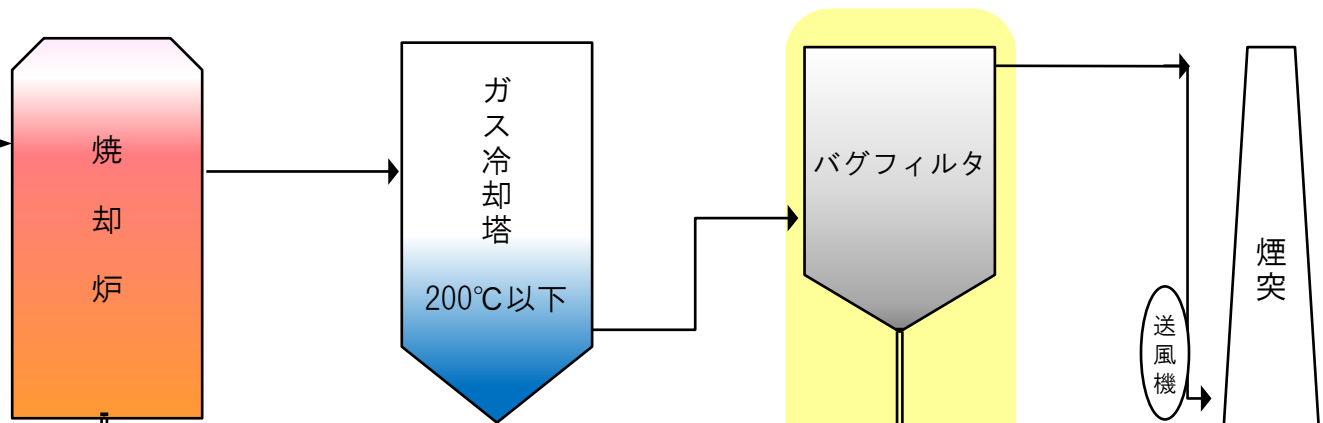
焼却処理の流れ(例)

受入れエリア



焼却設備

※ストーカ炉の場合



焼却灰(主灰)
貯留槽

主灰からの放射性物質の溶出量が環境大臣が定める要件より大きい場合

焼却灰(飛灰)
貯留槽

フレキシブルコンテナ
バッグ等で管理



セメント固型化設備



セメント固型化

非密封線源取扱エリア

高濃度の廃棄物を扱う可能性が比較的高いエリア

最終処分場における特定廃棄物の埋立作業の流れ

1. 廃棄物の受入れ
搬入された廃棄物の数量を計量器等により把握する。
2. 埋立地内への搬入
運搬車両により埋立地点へ廃棄物を搬入する。
3. クレーンによる積み下ろし
フレキシブルコンテナ等の容器ごとクレーンにより埋立地点へ積み下ろしする。
4. 覆土
一日の作業が終了したら、廃棄物が飛散ないように覆土を行い、廃棄物が一定の区画に埋まった時点でさらに覆土を行う。

